

2024年度 関西学院大学 海外客員教員(招聘A) 成果報告書

書式 1

(適宜行追加可)

受入担当	所属・職	経営戦略研究科・教授
教員	氏名	石原 俊彦
海外客員	所属・職	経営戦略研究科・招聘A教授 (セントアンドリュース大学経営学部教授)
教員	氏名	Tobias JUNG
招聘目的	1. 授業担当及び研究 ② 共同研究 3. 特別枠 (いずれかに○)	
招聘期間	2024年 4月 1日～ 5月31日	
成果報告 以下の内容を記載して下さい。	(1) 共同研究の内容 受入担当教員とその博士課程後期課程研究室(現役の博士課程後期課程生や大学院研究員のほかOBOGの研究者・大学教員の合計約30名で構成)では、Jung教授の研究領域であるフィランソロピーに大きな関心を有してきた。フィランソロピーの一般的な定義はいまだ学界でも議論の渦中にあるものの、民間の資本(財務資本だけでなく人的資本を含めたあらゆるリソース)を他利の目的で継続的に使用するという点では合意を得ている。こうしたフィランソロピーは、財政再建に取り組む自治体経営や大学経営、さらには、人命にかかわる病院経営等において今後、様々な形で融合されることが期待されており、本研究室のメンバーと受入担当教員は、それぞれに研究領域の視点から、フィランソロピーをそれぞれの学問領域のフレームワークに組み込もうと模索してきた。そうした研究成果の一部はすでに、石原俊彦監修『迷走するグローバル資本主義のゆくえ：博愛資本主義という考え方』2022年、関西学院大学出版会として公表されている。 (2) 共同研究の成果 今回の招聘の成果は、おおよそ次の2点に集約できる。まず第1に、ハンセン病療養所の一つである岡山県瀬戸内市の長島愛生園でのインタビュー調査の内容を踏まえて、人権と差別と国策の問題をフィランソロピーの観点から英語の学術論文として公表することである。既にインタビュー結果の文字起こしや英語へのデータ変換は終えており、現在は、セントアンドリュース大学における研究倫理委員会での審査を受けている最中である。この審査の結果を踏まえて、インパクトファクターのランキングの高い英語学術論文雑誌への投稿を計画している。 第2に、わが国におけるフィランソロピー思考の普及を目的とした基本的なテキストブックの共同執筆である(Jung/石原共著)。フィランソロピーの概念は、チャリティーの概念とは異なる。たとえば、フィランソロピーは、継続的な営みであり、一時的な寄付であったり遺贈のような仕組みとはその本質を異にする。この基本的なテキストでは、世界各国の有名なフィランソロピストの社会貢献活動を取り上げる。たとえば、アメリカの鉄鋼王と目された Andrew Carnegie の活動を紹介することによって、フィランソロピーの企図するところを簡潔に解説をして、日本でこの概念が広く普及することに貢献する。	

受入担当教員が成果報告欄を記入される場合は本書式をお使いください。

*本報告書は本学ウェブサイト等で公開されます